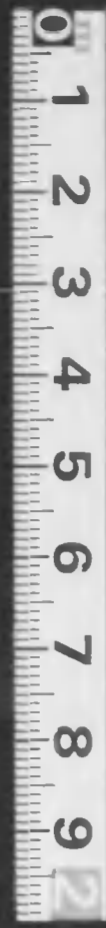


寫眞週報

情報局編輯  
十一月十八日 第四百七十七號

昭和十七年十一月十八日 星期一 第四千七百七十七號



血をもつて獲得した南方は  
靴屋でも、洋服屋でもない

南方は今日も、なほ戦場の心を  
心としてゐる

南の最大の魅力は建設への  
ひたむきな努力、これだ



南方は建設  
の慕から

大東亞戦争一周年も間近な今日、現地からの報道によると南方の建設工作は着々その實をあげ、現地人の協力感も日ともにも眞剣味を加へて來てゐる。わが將兵によつて身をもつて示された建設へのひたむきな努力、それを知れば知るほど現地人はもとより、俘虜さへ皇軍の指導の下に働くことよろこびを生れて初めて知つたのだつた

〇〇〇の燃料庫で皇軍に協力する現地の人々

撮影 陸軍報道班 3

「時の立札」は他へ轉載その他に御利用下さい



# 昭南 駢はゴムの洪水

撮影 陸軍報道班



根接木して三年のゴムの木、木の間には野菜も栽培して食糧増産に一致つとめてゐる

海朝、幹に切込みをすると切口から見る、ゴム液が流れ出す。植林して十五、六年目が一番ゴム液の排出が多い



とろりと白いゴム液は輪送管を流れて製成工場に送られる

豊富な資源をかたむけて軍備に狂奔するアメリカでも、さすがにゴム不足には深刻に悩んで、乗用自動車のタイヤ配給を極度に制限したといはれてゐる。南方占領地のゴム生産高は世界産額の約八割にあつてゐる。一九三九年の統計によればマレーだけでも世界産額の五割、四十六万一千トンを運出しその三分の二がアメリカに輸出されてゐたのだが、わが占領とともにこれがびたりとまつたのだからアメリカの苦惱もあつた



漉し桶に入れたゴム液は酸を加へゴム布が造られる

まへだ。ゴムの用途については従来、飛行機、自動車、戦車、防弾具等の軍需資材をはじめとしてベルト、ホースなどの工業資材、生活用品等、その利用範囲は極めてひろい。日本ではこの豊富なゴム資源を燃料や建築原料、金属代用、建築土木の新材料などとして積極的に活用するやうを強く、関係各機関や現地研究所で研究や工夫をすゝめてゐるが、昭南からのたよりによると府ゴムからオクタン値においてもほんものの優秀ガソリンに劣らない優秀な燃料が得られ、目下ガソリン工業化への研究が進められてゐることだ



マレーの各ゴム園から昭南に到着する原料ゴムは製成工場や内地にどしどし送られる



白いゴム布は煉製室でゴムの水を熱し造られて、美しいあめ色のゴムになる







火難 街角の電柱によく網の結びつけてあるのを見る。何かと思つたら公衆用マツチ代用品で先に火がついてくすぶつてゐた



多エス・コナ 調子を真似た子供の遊び。何處の國へ行つても子供の世に遊びはない



スゴク奇麗な ランゲーン(ハ) ランゲーンへと電燈を打つて飾りしたのは昨日の夕方だが、今は街の中央にあるスレ・パヨダも兵隊さん達の放物へ土産の記念撮影に押寄せられてゐる



曹長 上陸してからしい水兵さん、先遣隊の曹長さんに逢つてゐる微笑風景  
スレ・パヨダ前にて



サイカイ 側車がなまつてサイカイ、初ない人力車より速力も速いし、足踏らしもよいし、ランゲーンになくはならぬ交通機関、日の丸の旗が飄々とはためく

# 景朗ーグンラ



撮影と文 大木 葉一

ビルマ人、インド人、支那人。そして日本の兵隊さん。小車、馬車、人力車、自転車。色とりどり、およそ賑やかなのが景朗街である

大東亞戦争の勝利がなければビルマの勝利はない。新生ビルマの行くべき道は日本への絶対的協力、これこそわれわれがなすべき唯一最高の道だ。かういつたバーマ行政長官の熱意は、今日では首都ランゲーンをはじめとしてビルマ全土のビルマ人に深い共感をあたへてゐる

永くイギリスの策謀地であり、搾取の対象であつたランゲーンの表情は日ともにも明るく、共榮圏の一環として新しく建設へ進む街の取動をこゝにひびつてみよう





安南の娘さんには、お礼の品として、おみやげの品を贈る予定です。

「サイゴの日記」の語り部、佛印ではハノイやサイゴンを中心に日本通学校ができて佛人、安南人、華僑などが一生懸命勉強してゐます。生徒には商社会社の社長さんあり、タ イピストあり、ホテルのボーイさんあり、雑貨屋さんあり、多岐にわたります。そして皆で「フジハニッポン」や「ヤマ」だの、「ウラシマタロウ」を唄んでゐます。繁華街で道をきくと「右へ行ッテ左ニマガルト」や「グズ」など、安南人から流暢に返事をされて、かへつてびっくりすることもあるくらいです。



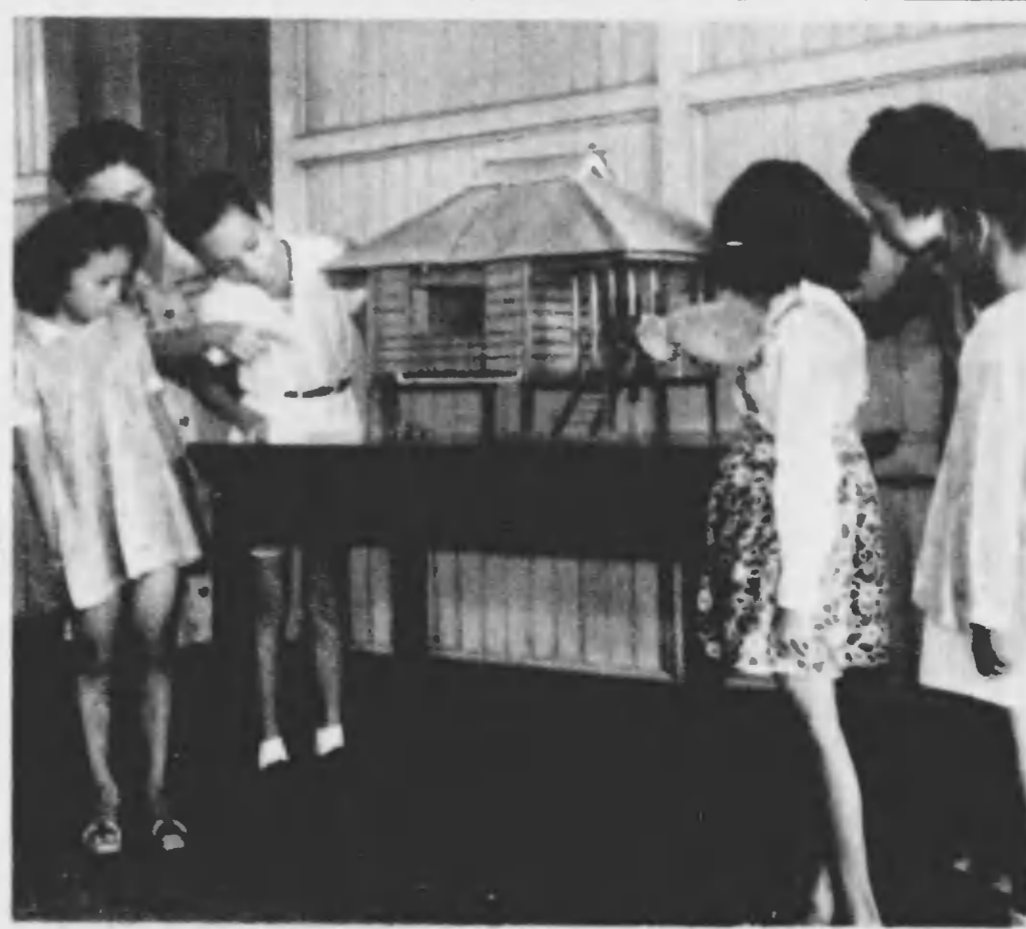
知も、もうどうやら出来あがつた。さて何を頼まようか。

**マニラの国民学校**

日本の国民学校のお友だちコンニチハ。マニラの僕たちの学校でも、この頃運動場にみんなで、先生も一緒になつて、ノイエンを作りました。先生のお話では日本の子供たちもみんなよくオハタケを作つて、さうして丈夫な強い子になるんでつて……ほんと！ 毎日学校の前を日本の兵隊さんが通ります。僕たちはもうシヤケイするほど仲よしになりましたよ。みなさんと一緒に遊べるやうになつたらどんなにいいだらうと思ひますではまた、サヨナラ

遊び時間にはよく「ホズミとホコ」をします、時々先生もオニになります

展覧會に出品した「私たちの家」は大評判でした





# アフリカの黎明

代田 貞雄 著  
男 代田 貞雄 著  
にパンレンバ

東アフリカの黎明に立つて、大いなる  
の影を聞かされた。この新しい  
土を踏むもの、何びとが新らしい  
文化の萌芽を見ぬものは、さぞ  
☆

我がの船は真夜中に赤道を越え  
てゐた。爽やかな南半球の朝が来  
た。我々は甲板に立って、海を  
眺め、深く、深く、と息を吸つた。  
水平線に近く、金色に光る山脈  
のやうな積乱雲が空を覆いてゐ  
た。私はまたこのやうに遠征を極  
めた積乱雲を仰いだことはなかつ  
た。来る日も来る日も船を揺らし  
つづけてやまぬ灼熱の陽光が猛  
烈な熱上昇を造り、それが空に描  
き雲を彩つてゐるのであつた。

心はインドネシア一般の、  
のやうに思はれる。例へばオラ  
ンダをインドネシア語では「ぶら  
んだ」といふ。それがいつの間  
に白人と見れば、悉く「ぶらんだ」  
といふことになつた。しかし、そ  
の「ぶらんだ」にはイギリスもあれ  
ばアメリカもある。これをどう区  
別するか。「ぶらんだ、いんけり  
す」といひ、「ぶらんだ、あめりか」  
といふのである。尤も、このこと  
は必ずしもインドネシアの無  
心さ加減を表すものではない。  
に、却つてオランダの強権を物  
語つてゐるかも知れない。

日本軍が近づいて来て、二、三日  
でパンレンバに入らうといふ二月  
十三、四日のことでした。私の主人  
は朝早くから起きて荷造りをして  
ゐました。だが、突然私に向つて「い  
よいよパンレンバを引揚げるこ  
とにしたから、この荷物を積める  
だけ自動車に積んで、お前も一緒  
に逃げろ」と要求された。私は  
かたがた、一筋に倒れてゐたジョ  
ンス(従僕)とも相談してゐたので  
す、日本軍はインドネシアを助  
けるためにオランダを攻めて来た  
のだから、主人は逃げる必要があ  
るだらうが、おれはどちらかと  
いへば、待ち遠しい位のもので、主  
人が逃げておれは迷ひも留まつ  
て日本軍を迎へようぢやないか、  
といふ風に、そこで私は「折角で  
すが、私共は逃げる事になつてゐ  
ますから」と断ると、主人は恐ろ  
しい顔をして「お前たちが主人の  
言ひ付に背くなら、おれにも考へ  
がある」といひ、机の抽斗から拳  
銃を出して私の胸に向けました。

スマトラは島とはいふもの、北緯  
六度から南緯六度のインド洋に  
悠々と横たはるこの島はその實、  
巨大な陸地として我々の目にふれ  
る。人類の文化がなせ北半球にの  
み榮えなければならなかつたかは  
私の知る所ではないが、千古の雪  
を戴く南米アンデスの山嶺でさへ  
古代インカ帝國の繁榮の榮を秘め  
てゐるといふ。しかし、スマトラ  
は依然として眠れる島である。そ  
の資源についても未開の寶庫とい  
はれる位である。

この世ながらの極楽とはかや  
うな所であらうか。しかし、イン  
ドネシア人たちはおそろしく花に  
無心である。「この花の名は何  
であるか」と問へば、十人のうち  
九人までは「花である」と答へるの  
みである。日々の生活が花に埋も  
れてゐるのであつてみれば、一々  
花の美しさに心魂を奪はれてゐた  
のでは逆もまたまたたものではな  
いであらうか。だが、この種の無  
心さ加減は、

私は主なきオランダ人の家の壁  
に必ずいくつかの油繪や水彩畫が  
掛けてあるのを見た。私はそれら  
の繪に描かれた風車のあるオラン  
ダの田舎や、アムステルダムかロッ  
テルダムか、灯かげに編物  
をする老婆の姿のなかに、北ヨ  
ロッパから遙々幾千裡の海をわた  
つて、荒蕪のスマトラへ生活を移し  
たかれ等の切なる望郷のおもひ  
を窺ふのであつた。常に「女王様  
の名において」強権を弄し、聖制  
を加へることを忘れなかつたかれ  
等といへども、ながき熱帯の夜を  
密かに燃熱に身悶えしてゐたので  
あらう。

とがあつた。スクリーンにセレベ  
スのメナドに奇襲降下した海軍落  
下傘部隊が映し出されると、観衆  
は極度に興奮し、床を踏み鳴らし  
ながら何事か大聲で叫び、ために  
家鳴り騒動するといふ騒ぎであつ  
た。一筋に見てゐた兵隊さんたち  
は「これはいつたいどうしたこと  
か」とでもいふやうにスクリーン  
から喚く観衆へと目を轉じて見惚  
れてゐたが、私には自づとその理  
由が領かれ、私には自づとそ  
りたい氣持が湧きあがるのを制へ  
ることが出来なかつた。

どうなつたか、そんなことはすつ  
かり忘れてゐました。  
つい二、三日前のことです。部  
隊の用事で私がオランダ人拘禁所  
へ行くと、轡を伸ばした一人のオ  
ランダ人が窓の中から私の手を呼  
ぶので驚いて振り向いて見ると、  
なんとそれが私の置き去りにした  
もの主人ではありませんか。私  
にビストルを突きつけた情むべき  
主人ではあつたのですが、あれ以  
來、一遍も思ひ出したことがなかつ  
たので「なあんだ、こんな所に  
ゐたのか」と思ひ、手をあげて挨拶  
すると「ニコニコ」笑ひながら何か  
言つたやうでしたが、私は後をも  
がなかにゐて、私の前の主人が

見ずに走り出して來ました  
運轉手の話はこれでお終ひであ  
る。  
☆  
インド洋を一時のなかに見はる  
かす南部スマトラの山々から流れ  
落ちた水は洋々たるムシ河となつ  
てパンカ海に注ぐ。南部スマトラの  
都、パンレンバを流れるムシ河の趣  
きは、ルーマナの平原を流れる  
青きドナウもかくやとおもはれる  
パンレンバは陸軍落下傘部隊が  
初めて降下したところ、歌詠みが  
大空を生けるしるしと降り  
立てる  
落下傘部隊に駆け草木も  
東亞戦争のニュース映畫を見たこ  
らに見つてか時勢しつかりパンレンバの大工さん

と詠みあげたところ。舞ひ降りた  
神兵たちの戦ひの跡には「挺身隊  
奮戦之跡」といふ碑が建て、いく  
かの墓碑も無常の陽を浴びてゐ  
る。  
昔古のむかしからインドネシア  
人たちに傳はる「いつの日か必ず  
神々の御使が空から舞ひ降りる。  
インドネシア人に眞の自由を與へ  
るものはこの神々の御使を措いて  
外にはない」といふ神話がいま現  
實となつてかれ等の世界に訪れ  
たのである。  
私はパンレンバの橋の「エリテ・  
ビオスコープ」といふ映畫館で大  
東亞戦争のニュース映畫を見たこ  
らに見つてか時勢しつかりパンレンバの大工さん

とがあつた。スクリーンにセレベ  
スのメナドに奇襲降下した海軍落  
下傘部隊が映し出されると、観衆  
は極度に興奮し、床を踏み鳴らし  
ながら何事か大聲で叫び、ために  
家鳴り騒動するといふ騒ぎであつ  
た。一筋に見てゐた兵隊さんたち  
は「これはいつたいどうしたこと  
か」とでもいふやうにスクリーン  
から喚く観衆へと目を轉じて見惚  
れてゐたが、私には自づとそ  
りたい氣持が湧きあがるのを制へ  
ることが出来なかつた。

で扉を拂して道傍で立小便をはじめ  
ました。何の氣もなしにその  
後、姿を見た瞬間、私は「このと  
きだ」と思ひました。矢張りギ  
アをローに突つ込むや後を見ず  
に全速力で走り、部落から部  
落へ殊更に通り道をして翌日再び  
パンレンバへ歸つて來ました。  
日本軍はその日のうちにパンレン  
バへ入つて來ました。私共は  
『日の丸』とインドネシアの旗『暹  
子と砂塵』を家々に立てて、勇ま  
しいタンクや自動車を迎へま  
した。インドネシア人の騒ぎは全く  
どえらいものでした。私はその騒  
ぎのなかにゐて、私の前の主人が

と詠みあげたところ。舞ひ降りた  
神兵たちの戦ひの跡には「挺身隊  
奮戦之跡」といふ碑が建て、いく  
かの墓碑も無常の陽を浴びてゐ  
る。  
昔古のむかしからインドネシア  
人たちに傳はる「いつの日か必ず  
神々の御使が空から舞ひ降りる。  
インドネシア人に眞の自由を與へ  
るものはこの神々の御使を措いて  
外にはない」といふ神話がいま現  
實となつてかれ等の世界に訪れ  
たのである。  
私はパンレンバの橋の「エリテ・  
ビオスコープ」といふ映畫館で大  
東亞戦争のニュース映畫を見たこ  
らに見つてか時勢しつかりパンレンバの大工さん

と詠みあげたところ。舞ひ降りた  
神兵たちの戦ひの跡には「挺身隊  
奮戦之跡」といふ碑が建て、いく  
かの墓碑も無常の陽を浴びてゐ  
る。  
昔古のむかしからインドネシア  
人たちに傳はる「いつの日か必ず  
神々の御使が空から舞ひ降りる。  
インドネシア人に眞の自由を與へ  
るものはこの神々の御使を措いて  
外にはない」といふ神話がいま現  
實となつてかれ等の世界に訪れ  
たのである。  
私はパンレンバの橋の「エリテ・  
ビオスコープ」といふ映畫館で大  
東亞戦争のニュース映畫を見たこ  
らに見つてか時勢しつかりパンレンバの大工さん

と詠みあげたところ。舞ひ降りた  
神兵たちの戦ひの跡には「挺身隊  
奮戦之跡」といふ碑が建て、いく  
かの墓碑も無常の陽を浴びてゐ  
る。  
昔古のむかしからインドネシア  
人たちに傳はる「いつの日か必ず  
神々の御使が空から舞ひ降りる。  
インドネシア人に眞の自由を與へ  
るものはこの神々の御使を措いて  
外にはない」といふ神話がいま現  
實となつてかれ等の世界に訪れ  
たのである。  
私はパンレンバの橋の「エリテ・  
ビオスコープ」といふ映畫館で大  
東亞戦争のニュース映畫を見たこ  
らに見つてか時勢しつかりパンレンバの大工さん





# 更に新たな 増産へ

豊年満作に心懸るな

畏き邊りでは、昭和十八年の春を、宮中御會始の御題を「豊村新年」と銘づけられた。大戦下、あらゆる困難に打ち克つて、食糧増産に敢闘する農村の士氣が、五穀豊穡の歡びも一入に迎へて、新穀を思召される聖慮のほど、まことに畏き極みであります。

農林省の発表によりますと、ことしの産米第一回推想收穫高は六千七百三十万石で、昨年の實收高に比へますと實に千二百二十一万石の増收となつてゐます。これも天の恵みに加ふるに、私たちが聖恩に應へまつらんとして捧げた努力の賜であるといはなければなりません。

しかしそれだからといって、いまこゝで心を緩めることは絶対に禁物です。たとへ内地は農作であつても、朝鮮は不作、臺灣の作物も大してよいとはいへませんし、また内地がことと同様、來年も農作であるとは限りません。その上、外米の輸入にしても、船難などの關係から樂觀の許されない事情が窺つてゐるといふやうに、それやこれやを考へれば農作の今後こそ、まさに一段の奮發が望まれるわけですよ。

いまこそ有難い勳題を拜した私たちは、この無上の光榮に奮ひ起つて、さらに新たな増産への闘ひを展開しなければなりません。

## 次ぎは麥類の増産だ

豊かなお米の收穫を終れば、私たちは息つく暇もなくまた麥播です。

ところで、麥は私たち國民の主要食糧として、お米に次いで大切なもので、お米が窮乏な今日、麥類はこの食糧戦に力強い援軍となるものです。即ち、わが國の麥の生産量は米の約四割餘で、莫大な數量に上り、従つて麥の出來、不出來はわが國の食糧供給の上に重大な影響を及ぼすわけですから、麥播の割當面積は必ず作付をしてせむとも増産に努めませう。

政府でもこれまで米價に比べて割安であつた麥類の價格に對して、こんど昭和十八年産のものに買入價格の値上げを斷行することになり、標準品である三等品の産地貨車乗價格依當り小麥、裸麥、大麥ともそれぞれ四割乃至六割の大幅値上げを決定しました。私たちがこれまでのやうに麥は農閑期の努力を利用して作るものといふ考へ方を改めて、農作を農作である米作と同等の地位にまで高めなければなりません。

ところが麥の増産には肥料の影響が極めて大きく、昔から「稲は上でとり、麥は肥料でとる」といはれてゐるほどです。このやうに大切な肥料が、それではことごとくくらゐ配給されるかといひますと、窒素肥料にしても、磷酸肥料にしても、またカリ肥料にしてもその分量は依然として少いのです。一般の麥でも餘計にとらなければならぬこの際、肥料の配給はこれに伴つて増すどころか、却つて減つてゐるのです。

しかも食糧として重大な麥の増産はいかにしてもこれをはからなければなりません。それでは一體どうしたらよいか。結局、配給された肥料はこれを割當てられた通り麥に重點的に施し、その足りない分は自



國の寶をほとんど奪ふと、モンペ委に「林」中々々々し、附近の山林一帯に落葉を集める高山高等女學校の熊手部隊

## 落葉で堆肥を

縣 阜 岐

落葉は青糞や糞肥とならんで天國の肥料食糧です。大東亞戰爭が激まつてから、農村の肥料事情のなかにあつて、農村の人たちはよく目にかへり、野草を刈り集めて落葉を拾つて、肥料の自給自足にいま精進な戦つてついでに、この地肥の増産運動に力強い一翼を揮ふ中野學校や國民學校などの落葉蒐集運動、熊手部隊の「落葉」を熊手部隊下からつてみました。

撮影 岡本 恭平



各生徒のお祈りから竹筒を持ち寄つて、熊手部隊の「落葉」を熊手部隊下からつてみました。



熊手二百本、ピク五十枚を製作、熊手部隊の「落葉」を熊手部隊下からつてみました。





# 堆肥

農林省  
農林技師  
安樂城敏男

堆肥を多量に用いて田圃に運出す。山形縣東根村 澤山作り、十分施すことが肝腎



堆肥は作物の母であつて、肥料はその乳ともいへませう。作物を立派に育て、増産をはかるためには母である土地を肥やることが最も大切で、そのためには、先づ以て堆肥を澤山作り、十分施すことが肝腎である。

## 堆肥とは

堆肥とは一般に厩舎から取り出した糞草や、これに稲藁、山野草、落葉、農場の残液、廃棄物などの原料を積み合せて腐熟させて作ったものである。厩舎から取り出した糞草のみを積み込んで腐らせたものを「厩肥」といひ、また堆肥の作り方に新たな工夫を加へたものに「速成堆肥」或ひは「マッシュルーム菌堆肥」等といはれてゐるものがある。

また非常に努力して来たので、今日程その必要が痛感されたことは未だ嘗てありませんでした。過去における堆肥の増産は主として農家のために必要でした。しかし、今日は国家のために要求されてゐるのです。それは大東亞戦争を勝ち抜くためには食糧を初めその他、種々重要な農産物を大いに増産しなければならぬので、これを増産するために必要な肥料は少からず不足してゐるので、この不足の補ひは堆肥に頼らなければならぬから、従つて、堆肥の増産は、以前に行へばよりよかつたのですが、今日ではせむとも行はなければならないのです。そこで、農

林省の指導によつて、各関係機関協力の下に系統農會が主体となつて全国にわたつて「堆肥生産倍加運動」が展開されてゐるのである。

堆肥とは一般に厩舎から取り出した糞草や、これに稲藁、山野草、落葉、農場の残液、廃棄物などの原料を積み合せて腐熟させて作ったものである。厩舎から取り出した糞草のみを積み込んで腐らせたものを「厩肥」といひ、また堆肥の作り方に新たな工夫を加へたものに「速成堆肥」或ひは「マッシュルーム菌堆肥」等といはれてゐるものがある。

何故原料をわざ／＼積み込んで腐らせるか。それは、原料にはおおよそ、その中に炭水化合物（澱粉とか纖維等）が多量に含まれてゐますが、これに反して窒素の含量が比較的少く、即ち、窒素の含量が大きいのです。かやうな組成の物を肥料として耕地に施用すると、肥料としての効果が防げられるばかりでなく、かへつて有害作用をさへ惹き起すことがあるから、この有害作用を除き肥料の効目（肥効）を増すために、原料を堆積して腐らせ、炭水化合物を分解させて炭素の一部を除いて、窒素と炭素の含量の比率を小さくしなければならぬのです。これが原料を

## 堆積腐熟させる理由です

厩舎で畜畜が踏みつけた糞草や、草や葉などは水を保たせて堆積しただけではよく腐りません。しかし、糞や落葉などはなか／＼腐り難いものです。かやうに腐り難い原料の腐熟を促す方法として「速成堆肥」が考案され、相當よく實行されてゐます。その要領は元來、堆肥はその原料に無数の附着してゐる微菌の作用で原料が腐熟して出来るものだから、従つて、この微菌が盛んに繁殖して活動するやうな條件を與へることが必要です。即ち原料に、肥料用石灰を水に溶かした石灰乳をかけて腐り易くし、それから微菌の活動に必要な養分と水とを與へ、そして堆積中の空気の流通を良くし、堆積物の反響を中性にすることを促す。また堆肥の分解を更に促してその効目を増す方法として、堆積物に「マッシュルーム菌」を繁殖させた所謂「マッシュルーム堆肥」が提唱されてゐます。

かうして出来上つた堆肥は農用上、種々な大切な役目を持つてゐます。堆肥の効目の大きいことは農家には既に明らかに認識されてゐるところですが、また素人園藝家等も堆肥の効目の著しいことは實際のことです。作物が生育するためには種々な養分が必要です。とり分け、窒素、リン酸およびカリの三種の

養分が最も必要なのであつて、これらの養分を肥料の三要素といつて、特に人の手でこれを肥料として施さなければなりません。堆肥百貫の中にはおおよそ窒素が四百九十貫、リン酸が二百六十貫、カリが四百八十貫位含まれてゐて、完全肥料です。

さてこれら堆肥中にある肥料の三要素の効目は、窒素は効目が徐々で、リン酸のやうな化学肥料に比較して、窒素は効目がかなり劣るのですが、しかし、効目が漸次に土壤中に残つて蓄積されて、所謂「地力」の源になります。リン酸やカリは速効であつて、過磷酸石灰の中にリン酸やカリ鹽の中のカリの肥効に匹敵します。過磷酸石灰やカリ肥料の國內資源に乏しい現状では、堆肥の果す役目は實に重大です。

さらに堆肥の中には大體二二三割位の有機物が含まれてゐます。この有機物は土壌の中で次第に分解して腐植を産みます。この腐植は土壌の物理的、化学的、および微生物的性質に有益な影響を及ぼして土壌の生産力を増進することになるのであつて、これが他の肥料に求めることのできない堆肥の特効といふべきです。

硫安や過磷酸石灰や硫酸カリのやうな化学肥料は、肥料三要素の中の一要素のみを含んでゐる偏質肥料であるばかりでなく、かういふ化学肥料は、それ

だけで連年増産を遂げることが出来ないので、堆肥を増産することによって、地力を増進するために、堆肥を施すことが必要です。即ち、堆肥を施すことによつて土壌中に腐植が生じ、その結果、土壌はその反響が矯正され、肥料養分や水分の保持力が増加して肥料の効目が調節される。印旛沼の舟路の稲穂げ、この至りに自給肥料とする一軒農家佐倉町

ただで連年増産を遂げることが出来ないので、堆肥を増産することによって、地力を増進するために、堆肥を施すことが必要です。即ち、堆肥を施すことによつて土壌中に腐植が生じ、その結果、土壌はその反響が矯正され、肥料養分や水分の保持力が増加して肥料の効目が調節される。印旛沼の舟路の稲穂げ、この至りに自給肥料とする一軒農家佐倉町

ただで連年増産を遂げることが出来ないので、堆肥を増産することによって、地力を増進するために、堆肥を施すことが必要です。即ち、堆肥を施すことによつて土壌中に腐植が生じ、その結果、土壌はその反響が矯正され、肥料養分や水分の保持力が増加して肥料の効目が調節される。印旛沼の舟路の稲穂げ、この至りに自給肥料とする一軒農家佐倉町

ただで連年増産を遂げることが出来ないので、堆肥を増産することによって、地力を増進するために、堆肥を施すことが必要です。即ち、堆肥を施すことによつて土壌中に腐植が生じ、その結果、土壌はその反響が矯正され、肥料養分や水分の保持力が増加して肥料の効目が調節される。印旛沼の舟路の稲穂げ、この至りに自給肥料とする一軒農家佐倉町

ただで連年増産を遂げることが出来ないので、堆肥を増産することによって、地力を増進するために、堆肥を施すことが必要です。即ち、堆肥を施すことによつて土壌中に腐植が生じ、その結果、土壌はその反響が矯正され、肥料養分や水分の保持力が増加して肥料の効目が調節される。印旛沼の舟路の稲穂げ、この至りに自給肥料とする一軒農家佐倉町

ただで連年増産を遂げることが出来ないので、堆肥を増産することによって、地力を増進するために、堆肥を施すことが必要です。即ち、堆肥を施すことによつて土壌中に腐植が生じ、その結果、土壌はその反響が矯正され、肥料養分や水分の保持力が増加して肥料の効目が調節される。印旛沼の舟路の稲穂げ、この至りに自給肥料とする一軒農家佐倉町

ただで連年増産を遂げることが出来ないので、堆肥を増産することによって、地力を増進するために、堆肥を施すことが必要です。即ち、堆肥を施すことによつて土壌中に腐植が生じ、その結果、土壌はその反響が矯正され、肥料養分や水分の保持力が増加して肥料の効目が調節される。印旛沼の舟路の稲穂げ、この至りに自給肥料とする一軒農家佐倉町

ただで連年増産を遂げることが出来ないので、堆肥を増産することによって、地力を増進するために、堆肥を施すことが必要です。即ち、堆肥を施すことによつて土壌中に腐植が生じ、その結果、土壌はその反響が矯正され、肥料養分や水分の保持力が増加して肥料の効目が調節される。印旛沼の舟路の稲穂げ、この至りに自給肥料とする一軒農家佐倉町

ただで連年増産を遂げることが出来ないので、堆肥を増産することによって、地力を増進するために、堆肥を施すことが必要です。即ち、堆肥を施すことによつて土壌中に腐植が生じ、その結果、土壌はその反響が矯正され、肥料養分や水分の保持力が増加して肥料の効目が調節される。印旛沼の舟路の稲穂げ、この至りに自給肥料とする一軒農家佐倉町

ただで連年増産を遂げることが出来ないので、堆肥を増産することによって、地力を増進するために、堆肥を施すことが必要です。即ち、堆肥を施すことによつて土壌中に腐植が生じ、その結果、土壌はその反響が矯正され、肥料養分や水分の保持力が増加して肥料の効目が調節される。印旛沼の舟路の稲穂げ、この至りに自給肥料とする一軒農家佐倉町

ただで連年増産を遂げることが出来ないので、堆肥を増産することによって、地力を増進するために、堆肥を施すことが必要です。即ち、堆肥を施すことによつて土壌中に腐植が生じ、その結果、土壌はその反響が矯正され、肥料養分や水分の保持力が増加して肥料の効目が調節される。印旛沼の舟路の稲穂げ、この至りに自給肥料とする一軒農家佐倉町

ただで連年増産を遂げることが出来ないので、堆肥を増産することによって、地力を増進するために、堆肥を施すことが必要です。即ち、堆肥を施すことによつて土壌中に腐植が生じ、その結果、土壌はその反響が矯正され、肥料養分や水分の保持力が増加して肥料の効目が調節される。印旛沼の舟路の稲穂げ、この至りに自給肥料とする一軒農家佐倉町

ただで連年増産を遂げることが出来ないので、堆肥を増産することによって、地力を増進するために、堆肥を施すことが必要です。即ち、堆肥を施すことによつて土壌中に腐植が生じ、その結果、土壌はその反響が矯正され、肥料養分や水分の保持力が増加して肥料の効目が調節される。印旛沼の舟路の稲穂げ、この至りに自給肥料とする一軒農家佐倉町

ただで連年増産を遂げることが出来ないので、堆肥を増産することによって、地力を増進するために、堆肥を施すことが必要です。即ち、堆肥を施すことによつて土壌中に腐植が生じ、その結果、土壌はその反響が矯正され、肥料養分や水分の保持力が増加して肥料の効目が調節される。印旛沼の舟路の稲穂げ、この至りに自給肥料とする一軒農家佐倉町

ただで連年増産を遂げることが出来ないので、堆肥を増産することによって、地力を増進するために、堆肥を施すことが必要です。即ち、堆肥を施すことによつて土壌中に腐植が生じ、その結果、土壌はその反響が矯正され、肥料養分や水分の保持力が増加して肥料の効目が調節される。印旛沼の舟路の稲穂げ、この至りに自給肥料とする一軒農家佐倉町

ただで連年増産を遂げることが出来ないので、堆肥を増産することによって、地力を増進するために、堆肥を施すことが必要です。即ち、堆肥を施すことによつて土壌中に腐植が生じ、その結果、土壌はその反響が矯正され、肥料養分や水分の保持力が増加して肥料の効目が調節される。印旛沼の舟路の稲穂げ、この至りに自給肥料とする一軒農家佐倉町

ただで連年増産を遂げることが出来ないので、堆肥を増産することによって、地力を増進するために、堆肥を施すことが必要です。即ち、堆肥を施すことによつて土壌中に腐植が生じ、その結果、土壌はその反響が矯正され、肥料養分や水分の保持力が増加して肥料の効目が調節される。印旛沼の舟路の稲穂げ、この至りに自給肥料とする一軒農家佐倉町

ただで連年増産を遂げることが出来ないので、堆肥を増産することによって、地力を増進するために、堆肥を施すことが必要です。即ち、堆肥を施すことによつて土壌中に腐植が生じ、その結果、土壌はその反響が矯正され、肥料養分や水分の保持力が増加して肥料の効目が調節される。印旛沼の舟路の稲穂げ、この至りに自給肥料とする一軒農家佐倉町

ただで連年増産を遂げることが出来ないので、堆肥を増産することによって、地力を増進するために、堆肥を施すことが必要です。即ち、堆肥を施すことによつて土壌中に腐植が生じ、その結果、土壌はその反響が矯正され、肥料養分や水分の保持力が増加して肥料の効目が調節される。印旛沼の舟路の稲穂げ、この至りに自給肥料とする一軒農家佐倉町

ただで連年増産を遂げることが出来ないので、堆肥を増産することによって、地力を増進するために、堆肥を施すことが必要です。即ち、堆肥を施すことによつて土壌中に腐植が生じ、その結果、土壌はその反響が矯正され、肥料養分や水分の保持力が増加して肥料の効目が調節される。印旛沼の舟路の稲穂げ、この至りに自給肥料とする一軒農家佐倉町

ただで連年増産を遂げることが出来ないので、堆肥を増産することによって、地力を増進するために、堆肥を施すことが必要です。即ち、堆肥を施すことによつて土壌中に腐植が生じ、その結果、土壌はその反響が矯正され、肥料養分や水分の保持力が増加して肥料の効目が調節される。印旛沼の舟路の稲穂げ、この至りに自給肥料とする一軒農家佐倉町

ただで連年増産を遂げることが出来ないので、堆肥を増産することによって、地力を増進するために、堆肥を施すことが必要です。即ち、堆肥を施すことによつて土壌中に腐植が生じ、その結果、土壌はその反響が矯正され、肥料養分や水分の保持力が増加して肥料の効目が調節される。印旛沼の舟路の稲穂げ、この至りに自給肥料とする一軒農家佐倉町

ただで連年増産を遂げることが出来ないので、堆肥を増産することによって、地力を増進するために、堆肥を施すことが必要です。即ち、堆肥を施すことによつて土壌中に腐植が生じ、その結果、土壌はその反響が矯正され、肥料養分や水分の保持力が増加して肥料の効目が調節される。印旛沼の舟路の稲穂げ、この至りに自給肥料とする一軒農家佐倉町

ただで連年増産を遂げることが出来ないので、堆肥を増産することによって、地力を増進するために、堆肥を施すことが必要です。即ち、堆肥を施すことによつて土壌中に腐植が生じ、その結果、土壌はその反響が矯正され、肥料養分や水分の保持力が増加して肥料の効目が調節される。印旛沼の舟路の稲穂げ、この至りに自給肥料とする一軒農家佐倉町

ただで連年増産を遂げることが出来ないので、堆肥を増産することによって、地力を増進するために、堆肥を施すことが必要です。即ち、堆肥を施すことによつて土壌中に腐植が生じ、その結果、土壌はその反響が矯正され、肥料養分や水分の保持力が増加して肥料の効目が調節される。印旛沼の舟路の稲穂げ、この至りに自給肥料とする一軒農家佐倉町



印旛沼の舟路の稲穂げ、この至りに自給肥料とする一軒農家佐倉町

ただで連年増産を遂げることが出来ないので、堆肥を増産することによって、地力を増進するために、堆肥を施すことが必要です。即ち、堆肥を施すことによつて土壌中に腐植が生じ、その結果、土壌はその反響が矯正され、肥料養分や水分の保持力が増加して肥料の効目が調節される。印旛沼の舟路の稲穂げ、この至りに自給肥料とする一軒農家佐倉町

ただで連年増産を遂げることが出来ないので、堆肥を増産することによって、地力を増進するために、堆肥を施すことが必要です。即ち、堆肥を施すことによつて土壌中に腐植が生じ、その結果、土壌はその反響が矯正され、肥料養分や水分の保持力が増加して肥料の効目が調節される。印旛沼の舟路の稲穂げ、この至りに自給肥料とする一軒農家佐倉町

ただで連年増産を遂げることが出来ないので、堆肥を増産することによって、地力を増進するために、堆肥を施すことが必要です。即ち、堆肥を施すことによつて土壌中に腐植が生じ、その結果、土壌はその反響が矯正され、肥料養分や水分の保持力が増加して肥料の効目が調節される。印旛沼の舟路の稲穂げ、この至りに自給肥料とする一軒農家佐倉町

ただで連年増産を遂げることが出来ないので、堆肥を増産することによって、地力を増進するために、堆肥を施すことが必要です。即ち、堆肥を施すことによつて土壌中に腐植が生じ、その結果、土壌はその反響が矯正され、肥料養分や水分の保持力が増加して肥料の効目が調節される。印旛沼の舟路の稲穂げ、この至りに自給肥料とする一軒農家佐倉町

ただで連年増産を遂げることが出来ないので、堆肥を増産することによって、地力を増進するために、堆肥を施すことが必要です。即ち、堆肥を施すことによつて土壌中に腐植が生じ、その結果、土壌はその反響が矯正され、肥料養分や水分の保持力が増加して肥料の効目が調節される。印旛沼の舟路の稲穂げ、この至りに自給肥料とする一軒農家佐倉町

ただで連年増産を遂げることが出来ないので、堆肥を増産することによって、地力を増進するために、堆肥を施すことが必要です。即ち、堆肥を施すことによつて土壌中に腐植が生じ、その結果、土壌はその反響が矯正され、肥料養分や水分の保持力が増加して肥料の効目が調節される。印旛沼の舟路の稲穂げ、この至りに自給肥料とする一軒農家佐倉町

ただで連年増産を遂げることが出来ないので、堆肥を増産することによって、地力を増進するために、堆肥を施すことが必要です。即ち、堆肥を施すことによつて土壌中に腐植が生じ、その結果、土壌はその反響が矯正され、肥料養分や水分の保持力が増加して肥料の効目が調節される。印旛沼の舟路の稲穂げ、この至りに自給肥料とする一軒農家佐倉町

ただで連年増産を遂げることが出来ないので、堆肥を増産することによって、地力を増進するために、堆肥を施すことが必要です。即ち、堆肥を施すことによつて土壌中に腐植が生じ、その結果、土壌はその反響が矯正され、肥料養分や水分の保持力が増加して肥料の効目が調節される。印旛沼の舟路の稲穂げ、この至りに自給肥料とする一軒農家佐倉町

ただで連年増産を遂げることが出来ないので、堆肥を増産することによって、地力を増進するために、堆肥を施すことが必要です。即ち、堆肥を施すことによつて土壌中に腐植が生じ、その結果、土壌はその反響が矯正され、肥料養分や水分の保持力が増加して肥料の効目が調節される。印旛沼の舟路の稲穂げ、この至りに自給肥料とする一軒農家佐倉町

ただで連年増産を遂げることが出来ないので、堆肥を増産することによって、地力を増進するために、堆肥を施すことが必要です。即ち、堆肥を施すことによつて土壌中に腐植が生じ、その結果、土壌はその反響が矯正され、肥料養分や水分の保持力が増加して肥料の効目が調節される。印旛沼の舟路の稲穂げ、この至りに自給肥料とする一軒農家佐倉町

ただで連年増産を遂げることが出来ないので、堆肥を増産することによって、地力を増進するために、堆肥を施すことが必要です。即ち、堆肥を施すことによつて土壌中に腐植が生じ、その結果、土壌はその反響が矯正され、肥料養分や水分の保持力が増加して肥料の効目が調節される。印旛沼の舟路の稲穂げ、この至りに自給肥料とする一軒農家佐倉町

ただで連年増産を遂げることが出来ないので、堆肥を増産することによって、地力を増進するために、堆肥を施すことが必要です。即ち、堆肥を施すことによつて土壌中に腐植が生じ、その結果、土壌はその反響が矯正され、肥料養分や水分の保持力が増加して肥料の効目が調節される。印旛沼の舟路の稲穂げ、この至りに自給肥料とする一軒農家佐倉町





# 山羊

乳児用牛乳や乳製品が十分出廻らない折、山羊の乳不足を山羊の乳で補はうと、今度、東京府南多摩郡多摩村保健協会で村内に山羊の牧場を開きました。母乳が足りない、健兵、健兵、つまり健康な健兵、強い兵隊をつくりあげることができません。それで母乳に最も近いといわれている山羊のお乳で母乳の不足を補ひ、丈夫な第二の國民を育てようといふことになつたのです。

同協会でまづ村内で飼つてゐる三十頭の山羊を賣ひあげて牧場を開いたのですが、搾つたお乳は青少年團の奉仕で、母乳不足の各家庭に供給してゐます。なほ、牧場で殖やした山羊は、種を付けて農家に拂ひ下げ、將來は農家三軒に一頭位の割合で飼育を奨励しようといふのであります。

山羊は濃厚飼料でなくとも、青草やその他の粗飼料で十分育ち、その上、溫和しいので女子供でも飼ふことができます。母乳に近い牛乳などとはが違って消毒の必要がありません。搾つたら直ぐかへて早速赤ちゃんのお口へ……

# 山羊の乳を赤ちん

東京府多摩村



「あんまり急いで、こぼさないで木筒で搾らう！ お家を忘れないで木筒で搾らう！ 楽しい配給者仕事です。」

乳幼児時代の栄養不足、發育不良が將來に及ぼす影響は非常なものです。同協会で山羊の飼育に手を染めたのも、最近同村の乳牛の乳が日立つて低下したのと、健康が病へ侵入してきたからです。





# 働く母を護る世

東 京 第 一 陸 軍 造 兵 廠



お家と同じやうに、こゝでもおやつ(おやつ)の時間にはおいしいお菓子(お菓子)が幼(幼)さを喜ばせる。

母の手ではない、だが腕(腕)をゆすつて呉れる手は母の手のやうに優しく、おむつを換(換)へる手は母の手のやうに温(温)い。母の働く間(間)を保護(保護)に覆(覆)られて無(無)心に育(育)つてゆく幼児(幼児)達(達)。

こゝの保育所(保育所)には生後(生後)四(四)十二(十二)日(日)から乳(乳)母(母)までの幼(幼)児(児)四(四)百(百)名(名)が播(播)種(種)に、母(母)に代(代)わ(わ)る(る)として働(働)き、未(未)來(來)の健(健)康(康)兵(兵)隊(隊)を約(約)束(束)されてゐる。



やがて母となる工員(工員)達は母(母)體(體)の保護(保護)と胎(胎)児(児)の教育(教育)を妊(妊)婦(婦)保(保)護(護)相(相)談(談)所(所)の保(保)護(護)の手に預(預)けられ、安(安)んじて職(職)場に働くことができるのだ。

よい兒(兒)強い兒(兒)を澤(澤)山(山)に育(育)てあげ、大(大)東(東)亞(亞)を擔(擔)つてゆく第(第)二(二)の國民(國民)を一人でも多くふやして、世界(世界)人口(人口)費(費)用(用)にうち勝(勝)つたためには、慈(慈)愛(愛)深い兩(兩)親(親)の細(細)かな心(心)づかひ(ひ)もとより大(大)切(切)ですが、かうした時(時)局(局)下(下)にあつては、父(父)親(親)も、母(母)親(親)も戦(戦)時(時)重(重)要(要)業(業)に身(身)を振(振)りかへて働(働)つてゐる人(人)達(達)が多いのです。

これらの人々(人々)のためにもまた子(子)供(供)はお國(國)の寶(寶)といふ立(立)場(場)からも、育(育)兒(兒)についての親(親)切(切)な社(社)會(會)施(施)設(設)は重(重)要(要)であり、各(各)方(方)面(面)にどん(どん)々(々)設(設)けられたいものです。



女(女)工(工)員(員)職(職)、日本(日本)一(一)とま(ま)でい(い)は(は)れる東(東)京(京)第(第)一(一)陸(陸)軍(軍)造(造)兵(兵)廠(廠)では数(数)多(多)い母(母)性(性)産(産)業(業)戦(戦)士(士)のた(た)め(め)の、妊(妊)婦(婦)の保(保)護(護)に、育(育)兒(兒)保(保)育(育)にとま(ま)りか(か)せ(せ)るの施(施)設(設)を設(設)け、温(温)い親(親)心(心)をもつて人(人)口(口)増(増)殖(殖)のた(た)め(め)に、ま(ま)た母(母)とな(な)つ(つ)ても産(産)業(業)戦(戦)士(士)に身(身)を捧(捧)げる女(女)性(性)た(た)ち(ち)の優(優)れ(れ)た技(技)術(術)と勞(勞)働(働)力(力)を確(確)保(保)すた(た)め(め)に大(大)き(き)な役(役)割(割)を(を)は(は)た(た)してゐ(ゐ)ます。

四(四)つ(つ)の門(門)近(近)く設(設)け(け)ら(ら)れた授(授)乳(乳)所(所)には九(九)時(時)半(半)か(か)ら十(十)五(五)分(分)、十二(十二)時(時)か(か)ら四(四)十分(分)、三(三)時(時)半(半)か(か)ら二(二)十分(分)さ(さ)ん(ん)や、お(お)母(母)さん(さん)やん(ん)に(に)つ(つ)れ(れ)ら(ら)れた乳(乳)児(児)た(た)ち(ち)の泡(泡)濯(濯)です。工(工)員(員)服(服)の胸(胸)をひら(ひ)けて母(母)の背(背)び(び)に任(任)事(事)の責(責)任(任)を(を)忘(忘)れる日(日)本(本)の母(母)の姿(姿)。



信通外海

ツイド

# すべては 勝利のために

前大戦と違って食糧は大丈夫だ、と  
當局は全ドイツ国民に太鼓判を捺し  
てくれたが、暮しい男子を戦場に送  
つた農村は財人輸出で占領地の小豆  
をみてはせず増産に懸命だ



右の拳をソ聯に、左の拳を米英  
に打ち振りつゝ、大東亞戦争に呼  
應して陸に海に阿修羅のやうに戦  
つてゐるわが同盟国ドイツの飲後  
はまた我に劣らず凡ゆる忍苦に耐  
へ、荒蕪として激しい戦争生活を  
つづけてゐる。ヒトラー總統は「勝  
利を獲得するためには戦線の犠牲  
のみならず國內の犠牲にも決たわ  
ばならぬ」と鉄血國民が戦ふドイ  
ツとしての義務を盡すことを要望  
し、ゲッベルス宣傳相また「我々  
が疑でも隠しても忘れてはならぬ  
ことは「我々は勝たねばならぬ」  
といふことであり、そのために我  
我は凡てを捨てるのだ」と聲を大  
きくして叫んでゐるが、國民は實  
際これら指導者の要請通りによく  
忍びよく働いてゐる。こゝにその  
いくつかの取組振りを紹介しよう

乙女たちの幾十人かは陸軍通信隊で  
軍用電話の交換手として通信機に参  
加してゐる。胸には通信隊の記章が  
鮮かだ、胸には兵士に負けぬ愛國の  
氣概を取調させながら

婦人の手は兵隊からも求められる  
手もある婦人も、身を戦場に送つた  
婦人も、山々大なる機械のハンドルを  
回し、山々大なる兵隊の陸で敵愾  
心に燃えつゝ立ち働いてゐる

東條總理が産業戦士の功勞を親しく  
賞されたやうにヒトラー總統もまた  
工場に鐵山に戦ふ産業戦士の功を賞  
し、その勞を稱つて後等を感涙させ  
てゐる

砲彈に宛された戦場は硝煙の消え去  
ると同時に畑とし、道路を敷かねば  
ならない。勤勞奉仕隊は前線部隊の  
あとを追ひ、汗になつて働いてゐる





大東亞戰爭漫遊日誌  
石川 進介



大東亞省長官新成



大東亞省長官新成



大東亞省長官新成



大東亞省長官新成



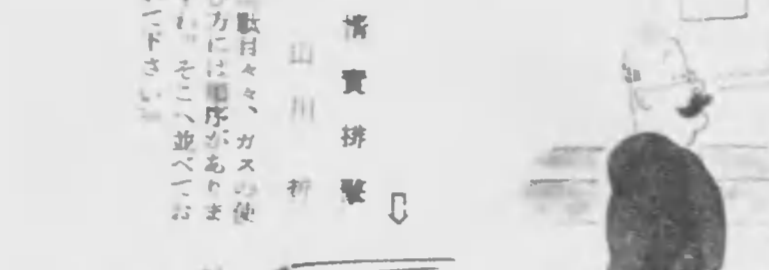
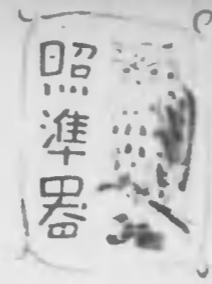
大東亞省長官新成



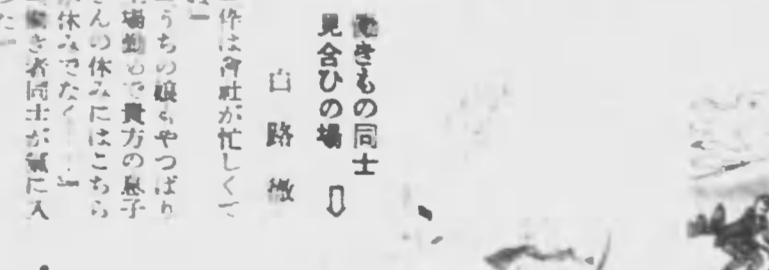
大東亞省長官新成



行列解河  
南 義 郎  
「おれさん、バスなんかほん  
やり待つてないで早く運のキ  
ンヤに乗んなよ。早い、か  
らだのために。」



仲の悪い夫婦に  
大野 綱三  
「おんなに機嫌を壊つてた娘を見  
とれてますよ、いゝころへ來ま  
したわね。」



客間へお銀進駐  
佐藤 利夫  
「おんなに機嫌を壊つてた娘を見  
とれてますよ、いゝころへ來ま  
したわね。」



大東亞省長官新成



フープに遊べる未来の遊具  
岡崎市 太田 正壽  
右 未来の遊具を夢見る岡崎市附屬  
国民学校の児童たちは、やがて自分  
たちが空飛ぶ日、反動、横断、急降  
下などのどんな運動にもうちあつこ  
とができるやう、いまのうちから強  
い肉體を作つておかつ、毎日慣れ  
の上空の下でフープ（劇輪）によ  
る地上航空訓練を重ねてゐます  
増進に拍車をかける遊具  
上 生産職を工場の人たちも、  
毎月の大昭會日には全員打揃つて  
鼓笛隊を先頭に歩武堂々神社参拜を  
行ひ、また體育大會、慰安の夕べな  
どにはその妙なる遊具に一日の勞苦  
を忘れ、明日の増進へ拍車をかける  
のです



日本映畫社製作  
この映畫は大東亞  
戦争下、重工業工  
業の強化と発展のた  
め、轉業者の雄々しく立  
上る姿を描いたもの  
である。今日の轉業  
は、國家の要請に基  
く轉業であり、轉業  
者は名譽ある職名を  
である。こゝには轉  
業希望者の進むべき  
手順と、新らしき職  
場に挺身する強く温  
しき姿を描いてゐる

情報局監修  
船を造らう  
日本映畫社製作  
本映畫は、戦争の進展に伴ひ、更に多く  
の船舶を必要とする理由を説くと共に造船  
その他戦争資材に必要な鋼鉄を廣く一般か  
ら供出すべきことを強調したものである



大東亞戦争一周年記念  
特設大東亞戦争一周年記念誌  
來る十二月二日發行の本誌は  
大東亞戦争一周年を記念して特  
設大東亞戦争一周年記念誌として  
御期待下さい

復習室  
本誌からあなたは何かを学んだ  
てせうか。  
1 堆肥が完全肥料だといはれる  
のは何故でせう。(14頁)  
2 ゴムは軍需や工業資材のほか  
に將來どの方面に利用される  
ことになるでせうか、三つ以  
上あげて下さい。(5頁)  
3 タイカーとは、ベンガル  
海、ラングーン、華僑の好む賭  
博、ラングーンの乗物、  
ジャワの清涼飲料。(6頁)  
4 南方占領地のゴム生産高は世  
界生産の約〇割です。(4頁)  
5 米に次いでわれわれの主要  
食糧である薯の我が國の生産  
量は大陸米生産量の三割、  
四割、五割、六割。(13頁)  
6 ゴムは植林してから〇〇〇年  
目が一番ゴムの排出が多い  
7 薯を作りたいのですが、酸性  
土壌でも栽培できないでせう  
か。(14頁)  
8 母乳に最も近い牛乳は、山  
羊の乳、牛乳、馬の乳。(16頁)  
9 他の肥料にない堆肥の特效と  
は何でせう。(14頁)  
10 避難保護相談所、授乳所、託  
児所が時局下特に國家の大事  
な施設になつてきました、何  
故でせう。(18頁)  
一冊十點としてあなたは何か  
を学んだか。

所 達 申	價 定
全国各地官報販賣所	一部十錢(送料一錢)
新聞販賣店	(一) 外函郵送(依る地域)
書店・驛賣店	は送料(二) 部十九錢
眞材料店	▲ 郵約配送希望の方は一
	部十錢(送料一錢)の割
	合を以て前金を添へ御申
	込み下さい
	▲ 特大紙の場合は其の都度
	御達達金より差額を申受
	けます

★表紙  
一寸見る上南方名物椰子の  
木陰の踊りのやうだが、表情  
をよく御覽下さい。これはさ  
やうな浮ついた所作ではなく  
「シラツ」と稱するスマトラ  
特有の活潑な武踊である。閑  
に遊けた日の丸の色も鮮もし  
く、日本の指導者新生スマト  
ラ建設に奮闘かうとする住民  
達が心を練るわざでもあるの  
だ  
撮影 陸軍報道班



